

2025年度 学士入学・一般編入学

【文学部日本文学科】

専門科目学力試験

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

問1

あさせしら波が、浅瀬を知らないと浅瀬の白波との掛詞となっている。

問2

得（動詞・ア行下二段・未然形）

られ（助動詞・可能・未然形）

ぬ（助動詞・打消・連体形）

こと（名詞）

なり（助動詞・断定・終止形）

問3

(b) まちがい。

(c) どうして。

(e) はっきりしない。

(f) 中途半端に。

問4

醍醐天皇。『古今集』編纂の下命者であるため。

問5

浅瀬を探してたどったが川を渡りきらないうちに夜が明けてしまったので。

問6

渡し守が人に渡すには、知り人知らぬ人の区別はあろうか、いやない。

問7

渡りきらないのにと渡りきるとの違い。

問8

月は、実際には山を出入りするわけでないが、あたかもそのように見えるため「山の端に出て」「山の端に入る」と表現したり、花と白雪、紅葉と錦とは別物であるが。見立てとして詠んだりするように、事実とは違うことを強調表現として詠むことを言う。

問9

普通の人でさえもまれに女と逢う夜ならばどんなことをしても逢うのに、まして一年に一度しか逢えない七夕の二星が逢わずに帰ったと詠むのはおかしいとして、実際には逢ったのだがその時間が短くて逢わなかったように感じられるため、このように詠んだと解釈した。